別紙９

６　土量総括表

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　　　分 | 切　土 | 盛　　　　土 | | 捨　土 | 備　　　　　　　考 |
| 切土転用 | 不 足 土 |
| 全　体　土　量 |  |  |  |  |  |

捨土の処理方法

そ　の　他

（注）１　「土量計算」については、計算書等、根拠となる資料を添付すること。

２　「捨土の処理方法」は、図面（位置図、防災等計画平面図、断面図等）及び写真を添付し、説明するとともに、選定理由、埋立後の利用計画等についても記載すること。

　　 ３　「その他」は、開発目的が岩石の採取の場合は、①採取する岩石の種類、②採取の方法等について記載すること。

７　他の法令等の許認可の状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　　　　分 | 法令等の名称 | 申請等年月日 | 許可等年月日 | 備　　　　考 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

８　防災・水源の確保・環境保全についての考え方等

（1）計画地及びその周辺の状況

　 ①　位置及び産業等土地利用

　　 例　計画地は◯道◯◯線の◯側で◯◯町の◯◯部に位置する。当該地及び周辺は農業を中心とする地域で、農業振興地域の農用地区域に指定されている。昭和◯◯年に、土地改良事業による基盤整備がなされた地区で、特に◯◯の生産が大きなウェイトを占める。計画地に最も接近する集落は、下流◯◯ｍに位置する◯◯地区の◯◯戸である。

　　　　 また、計画地からの雨水は、普通河川◯◯川を経て◯◯水系◯級河川◯◯川へ注ぐもので、下流◯◯kmには、中国電力㈱管理の発電用◯◯貯水池があり、下流◯◯ｍからは漁業権設定河川となっている。

　　　 ※都市的利用の場合は、都市計画法上の位置付け、周辺土地利用の進行経過、都市基盤の整備状況等を示す。

　 ②　地形・地質

　　 例　○◯地形をなし、山腹傾斜は◯◯～◯◯度で比較的緩く、標高は◯◯ｍ～◯◯ｍ程度の◯◯向斜面である。地質は◯◯岩で構成され、土壌は◯◯である。

　 ③　林　　況

　　 例　◯◯を主林木とする天然◯◯樹林がほとんどを占め、林齢は◯◯～◯◯年で、下層植生は◯◯等のかん木、◯◯シダである。局所的には、アカマツ大怪木がみられるが、優良人工造林はみられない。

（2）転用による防災対策

　 ①　工事中の対策

　　〔概　要〕

　　 例　工事中の雨水及び流出土砂は、造成工事開始以前に盛土部の下流へ、仮設えん堤及び調整池を先行設置し、地区外への雨水流出抑制及び土砂流出防止に万全を講ずるものである。

　　 ア　水の処理

　　　　 ※表面雨水・地下排水・降雨期の工事施行・応急処理材・濁水等の監視体制について示す。

　　 イ　土砂流出防止

　　　　 ※貯砂施設及びその容量根拠・設置時期・箇所・土工事のバランス・高盛土箇所のスベリ防止策・法面整形・緑化時期等を総括的に示す。

　 ②　転用後の対策

　　〔概　要〕

　　 例　区域内の雨水は、◯渠により、防災調整池に集水し、洪水調節を行い、◯◯河川◯◯川に放流する。（※後背残流域がある場合は、その処理についても示す。）工事完成後流出土砂は、軽微なものと思われるが、各集水桝及び防災調整池に堆砂する。

　　 ア　水の処理

　　　　 ※水理計算根拠・施設の安全率・調整池の調整能力等について総括的に示す。

　　 イ　土砂の流出防止

　　　　 ※施設の容量根拠・維持管理方法・その他流出土砂抑制上の配慮について総括的に示す。

　　　 　　また、法面工法について次表を添付する。

（例）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | 切　　土　　法　　面 | 盛　　土　　法　　面 |
| 小　　段 | 垂　　直　　高 | 3～5メートル | 3～5メートル |
| 5メートル以内ごと | 1メートル | 1.5メートル |
| 15メートル以内ごと | 3メートル | 3　メートル |
| 法　　面　　勾　　配 | | 地上5ｍまでブロック積  5ｍ～10ｍまで45°  10ｍ以上35° | 法尻をコンクリート擁壁で覆い、  それ以上のがけ面は30° |
| 法面の最大高さ | | 33メートル | 38メートル |
| 法面の箇所数 | | 9　箇　所 | 9　箇　所 |
| 法面の排水方法 | | 小段には横排水としてフリューム250を入れ30ｍごとに縦排水としてフリューム300を設置し、法尻に導き河川、水路に接続する。 | |
| 法面の保護方法 | | 地上高5ｍまでは擁壁で覆い、それ以上の法面種子吹付工を標準とし地山の状況により、工法を選定する。 | 法尻はコンクリート擁壁等で覆い全法高の1／3までは法枠工と種子吹付工を併用し、それ以上は、種子吹付工とする。 |
| 法尻の構造物 | | コンクリートブロック積擁壁  （Ｈ≦5ｍ） | 重力式コンクリート擁壁  （Ｈ≦5ｍ）  逆Ｔ型擁壁（Ｈ≦7.5ｍ）  扶壁式擁壁（Ｈ≦12.5ｍ） |

（3）水源の確保

　　①　区域周辺の飲用水について

　　　例　区域周辺の既存民家の飲用水の水源は計画区域内ではないが、井戸水に頼っている状況であることから造成事業に起因して、水かれ等の被害が発生した場合は造成主が全責任を負い補償等善意をもって対処することで、地域住民の合意を得ている。

　　②　農業用水の確保

　　　例　当該地下流の◯◯haの農地は、計画地流域を水源としていることから、利用状況を調査し関係者と十分協議した上で周辺農地及び下流域の利水に障害を生じないよう配慮し、造成期間中においても仮設付替水路の整備をし、本付替水路は、造成地中心部を縦断する◯◯河川上流部より取水し途中に分水桝を設けて既存用水路へ誘導接続する。なお、本付替については地元利害関係者の同意を得て計画しているが、詳細については十分協議し実施する。なお、これに必要な水量は◯◯t／日と想定される。

（4）環境の保全

　　①　残存森林の配置

　　　例　計画地南側に養鶏施設があり、これに対する騒音防止等の配慮から当該位置に重点配置したもので、区域内に残置した森林等緑地の面積は開発行為をしようとする森林面積の◯◯％を確保している。また、当該計画は地域住民の合意を得ている。

　　②　法面等の緑地化

　　　例　裸地面を早期に緑化するため法面整形後は、種子吹付、筋芝工等による緑化工を施行する。

（5）そ　の　他

　　①　下流水域への濁水放流防止対策

　　　　※防止施設・工事工程・応急資材の配備・監視体制について示す。

　　②　工事中の騒音、塵埃、交通障害対策